

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070600517		
法人名	社会福祉法人 年長者の里		
事業所名	グループホーム八幡	ユニット名	Aユニット
所在地	福岡県北九州市八幡東区大蔵3-2-1		
自己評価作成日	平成23年8月20日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年9月7日	評価結果確定日	平成23年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から9年が経過し、入居年月が長い方は加齢に伴い心身共に重度化し、入居年月の浅い方との認知症・身体レベルの「差」が激しくなってきた。その「差」があっても、個々を尊重し、介護に工夫をしながら、生活の質を保つことができるように努めている。本人自身ができることは行っていただき、できない部分は介護者が補うことを基本に支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は介護を始め、診療所等、法人施設に囲まれており、何かあればすぐに対応出来る恵まれた環境である。元々法人内のデイサービスを利用して利用者が多く、時々デイサービスを訪ねて行って、以前からの友人と会ってお喋りを楽しんだり、逆にホームに遊びに来てもらったりすることもある。地域密着ということを常に念頭におき、地域での行事に参加したり、買い物や散髪等も地域の商店街を利用しながら、地域住民と顔見知りになって、お互いに気軽に声を掛け合えるような関係づくりが出来ている。また、利用者の家族とのコミュニケーションもよく取れており、利用者、家族、職員の和やかな関係が保たれているホームである。

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とホームの理念に「地域との密接な関係作り」を掲げており、職員はその精神に則って介護を行っている。	2007年に職員全員で、元々ある法人の理念を踏まえながら、グループホーム独自の理念を作りあげた。新人職員が入職してきた時を始め、会議の時等に読み上げて、理念の共有を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の夕涼み会・地域の酒蔵開放イベント・市民センターまつりなどの行事には、積極的に参加している。	法人で開催している夏祭りに地域の人たちを招いたり、保育園やボランティアの来訪があったりと、受け入れ態勢は取れている。また、地域の祭り等のイベントにも積極的に参加して、地域との連携を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症に関する知識などを伝えている。今年7月には九社連老人施設協議会において、グループホーム八幡の取り組みを研究発表した。その発表を運営推進会議において、報告した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価を配布し、重要ポイントを説明している。それを基に話し合いをおこない、意見や感想を取り入れている。	奇数月の下旬に開催しており、町内会長をはじめ、地域包括支援センターの職員等に参加してもらっている。ホームの取り組みや行事等についての報告を行って、意見を出してもらおう機会としている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員を運営会議の委員として参加していただいている。2ヶ月ごとの運営会議の案内の際には、どのような問い合わせが多いかなどを伺っている。	地域包括支援センターの職員との連携が密に取れており、協力体制が図れている。また、区役所に用件がある際には、利用者と一緒に窓口に出向いていくこともある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な職員会議の中で、身体拘束について勉強をしている。また、外部の身体拘束に関する研修にも参加し、そこで学んだことを職員会議に反映させている。	職員会議や外部研修に参加する等しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に言葉の拘束については、「つい」ということがないように、職員同士で日頃から注意しあっている。これまでに身体拘束を行った事例はない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員会議の中で、虐待について勉強をしている。また、外部の虐待に関する研修にも参加し、そこで学んだことを職員会議に反映させている。		

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる。職員は成年後見制度に関する研修に参加し、そこで学んだことを諸君会議に反映させている。	代表で外部研修等に参加してもらい、参加出来なかった職員に対しては、内容について報告をするようにしている。実際に成年後見制度を利用している方もおり、制度についての理解も深まってきている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には十分な時間を取り、契約内容について不明な点などは、気軽に聞くことができる姿勢をとっている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置している。また、面会の際には積極的にご家族との接触を図り、そこで出た意見を運営に取り入れている。	利用者に対しては、アンケートを取るようしており、要望や意見を聞き出して、出来る限りケアの中に組み込んでいくよう努めている。家族に対しては、毎月の請求書を送る際に、ホームに対する意見等を記載してもらう用紙を入れてみることを検討しているところである。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、介護主任を介して、管理者に運営上の意見や提案をおこなっている。それを基に「風通しの良い職場」を作っている。	相談しやすい雰囲気づくりに努めており、実際に職員から運営に関する意見は多く出ている状況である。その意見については、出来る限り実現していけるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の定期的な昇給、パート職員から正職員への登用を積極的に行っている。資格取得(介護福祉士・ケアマネジャー)が出きるよう休日等配慮している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法律に則った募集・採用を行っている。定年後の再就職として介護している者も多くなる。ここ4年ほどは、職員の大きな入れ替わりもなく、認知症介護における「親しみのある介護」が行えている。	職員の募集や採用については、新卒者の場合は法人で採用を決定しているが、中途採用の場合はホームで決定するようにしている。最近では職員の入れ替わりも殆どない状況である。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時に必ず人権研修を行っている。	年に1回程度、法人内での研修を行っており、倫理やコンプライアンス等を学ぶ機会としている。また、依頼があれば、市民センター等に出向いて、地域の方々に向けた研修を行うこともある。	

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は順番に様々な研修に参加する機会を確保している。それを日常業務に反映させている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講義に出席した際は、他事業所職員と積極的に交流し、意見を交換している。また、昨年度に八幡東区グループホーム交流会が発足し、他事業所との交流の場が増えた。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない方には、他入居者との接点を増やしたり、職員とのなじみの関係が築けるように、積極的に接している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用がはじめての方が多く、ご家族も不安を抱えていらっしゃる方が多い。電話や面会を通じて、本人の様子を細かく伝えている。また、要望・意見は遠慮なく言っていたくような雰囲気を作っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」の支援を見極め、家族や友人などのインフォーマルな人たちと連携をとっている。外出の付添や食事介助等の支援がある。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの心身の障害に応じた、暮らしの中の作業をして頂いている。掃除や洗濯、行事での食事作り等である。職員と共に行う事を基本としている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設運営に協力していただき、花の世話や、散歩にも一緒に行っていたくなど、一緒に介護を行うようにしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の制限はしない。事前の連絡があれば宿泊も可能としている。	元々地域内に住んでいた利用者が多く、ホームの近隣が馴染みの場所となっている。部屋にはそれぞれ電話を引いている利用者もあり、家族や友人と自由に連絡を取り合うことが出来るようになっている。	

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	ホールでの座席位置など、孤立しなくて済む環境を作 っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォ ローし、相談や支援に努めている	退去の理由は常時医療の管理が必要になったため「長 期入院」が多い。契約解除後もお見舞いに行くなどし、 ご本人が新しい生活に移行しやすい支援をしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で希望などを言えない方が多いので、日ごろの 生活や一瞬に「笑顔」をヒントに、入居者が求めている ものを探るようにしている。	散歩の時や入浴の時等、利用者と職員が1対1になっ た時、利用者がいるんな話をしてくれることが多いので、 そのような機会にその人の意向や希望を把握するよう に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握していないキーパーソンも多い。ケアマネ ジャーから情報を仕入れたり、日ごろの会話の中で、入 居者の歴史、サービスに至った経緯を把握している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の 現状の把握に努めている	アセスメントを行い、一人ひとりの現状の把握をして いる。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞ れの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を 作成している	できる限り、計画作成会議にはご家族にも出席していただ いている。また、日ごろの会話の中からご希望などを取 り入れている。	それぞれの居室担当が決まっており、その担当者がア セスメントを実施して計画作成担当者として話し合いな がら介護計画を作成している。またその計画については、 毎日評価を行い、少なくとも3ヶ月に1回は計画を見直 すようにしている。	アセスメントでいろいろなニーズや問題を引き出すこと が出来ているが、それが計画に上手く反映されていない。 課題の抽出から分析まで行った上で計画を作成してい くと、さらに深みのある計画になっていくと思われます。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記 録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計 画の見直しに活かしている	一瞬の会話や、日常の様子を細かく記録しており、その 内容を職員間で共有している。		

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の同一敷地内に高齢者施設・介護事業所があり、在宅時にヘルパーやデイサービス職員や利用者顔見知りであり、日々の交流行われている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日は散歩に行くので、地域の人と挨拶をする関係が保たれている。また盆踊りに参加したり、地域のまつりに参加している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方は、併設の医院が主治医になっており、定期的に往診もあり、日ごろから支援を受けることができている。	元々併設の医院がかかりつけであった利用者が利用しており、そのまま受診してもらっている。他科については、職員や家族で送迎して受診の支援を行っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは密に連絡を取り合っ様子を報告している(痰が多い、足が腫れているなど)。主治医と訪問看護師、介護職員の連携は同一建物にあり連携はスムーズである。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員やご家族との情報交換は密に行い、職員はできる限りお見舞いに行くようにしている。入院受け入れがスムーズに運ぶように協力病院と契約を交わしている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護には、医療との連携が不可欠であり、日ごろから医師との密接な関係を作る努力をしている。ご家族にはホームでは対応できない事柄を入所時に説明している。	看取りについては、実際にその状況になった際に、医師と看護師、家族、職員と方向性について十分に話し合いを行った上で、希望があれば対応するようにしている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象に訓練や講習を行っており、今年7月に救急救命訓練を行った。		

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、入居者も避難場所までに避難を行っている。法人全体の訓練では地域住民と一緒に訓練をしている。	法人全体での訓練とホーム独自での訓練の両方を行っており、その際には消防や地域の方々にも参加してもらっている。緊急連絡網も作成しており、年に1回程度、抜き打ちで練習を行うようにしている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これは「人権」や「言葉の暴力」などにもつながっているため、個々を尊重した言葉かけをしている。	年に1回程度、プライバシー保護についての研修を開催している。日頃より、言葉かけ等で利用者の尊厳やプライバシーを損ねることがないように十分注意している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつなどは配膳せずに、入居者間で分けられるように見守っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のタイムスケジュールは基本的にケアプランに反映されているが、その日の要望や天候、体調によって変更し散歩などを楽しんだりしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の更衣、洗顔や入浴後の整髪等、身だしなみには注意を払っており、食べこぼしで衣類が汚れた場合などはすぐに着替えるようにしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備ができる方は準備を、片づけができる方は片づけを、テーブル拭きができる方はテーブル拭きを、などと役割分担ができています。	料理のつぎわけや配膳、片付け、テーブル拭き等、それぞれの力量に応じて出来る部分を利用者に手伝ってもらいながら行っている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスのとれた献立、食材の好き嫌いを把握した提供方法の工夫等をして、水分は1日に1500ccを目標に摂られている。		

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	「歯磨き」という意識ではなく、「口腔ケア」という意識でケアをおこなっている。自立して行っている方も一日に1回は、職員が口腔ケアをしている。歯医者との定期受診もしており、「この入居者はみんなケアが行き届いている！」と評されている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居から年月が経過した方は高齢になってきているが、日中はトイレでの排泄を実施するため、声かけや個別の定時時間の設定を決めて、2名介助でトイレ誘導をするなどしている。	それぞれの排泄パターンを把握しており、それに合わせて誘導を行っている。オムツを使用している方も、トイレに誘導するようにしており、自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の服薬で一番多いのが便秘薬であるが、なるべく服用しないで済むよう、個々に応じた運動や十分な水分で対応できるようにしている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室は個室であり個別入浴であるため、体調等を見ながら入浴時間を考慮している。夏場は入浴時間を9時半～19時に幅をもって設けている。	利用者の希望に応じて、入浴してもらうようにしている。入浴を拒否する利用者もいるが、声かけの方法等を工夫しながら対応するようにしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たい時間に眠れるように支援しているが、基本的には日中は活動し、夜間に眠れるよう昼夜逆転がないようにしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケアプラン、カンファレンス等に会議で全職員に説明しており、抗精神病薬などを服薬しているときは、様子を細かく医師に報告し、微調整をしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに役割を取り込んでおり、できることはやっていただき、できないことは支援している。		

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により買い物や散髪など個別の外出に対応しており、春や秋等天候のいい季節にはドライブなども企画し、その日の天候や体調を考慮に入れ行き先等も柔軟に考えている。	気候が良くて天気がいい日は、毎日散歩に出掛けている。またドライブを兼ねて季節の花を見に行ったり、外食や買い物に出かける等、積極的に戸外へ出掛ける機会を作っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額はご家族やホームでお預かりしているが、小銭はご本人が管理して、買い物や自販機などで使用している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればご家族に電話をかける支援をしている。また、遠方のご家族と手紙のやりとりをしている入居者もあり、嬉しくて何時間も手紙を読み返している方もいる。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分特に水回りの台所、便所、浴室は不潔になり易いので清掃には力を入れている。居間は昼間長く過ごす場所なので、室内温度は一定に保つよう調節し、常時テレビをつけっ放しにせず見る時間、静かな時間、BGMだけの時間をとっている。	共用部分にある家具は家庭的なもので揃えられており、ゆったりと落ち着いて過ごせる空間づくりがなされている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの座席位置は孤立をしなくて済む配置を考えている。独りになることができる時間も確保している。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていたものをそのまま持ち込んでいただくようにしており、新調はなるべくしないで済むように努めている。	入居時に使い慣れたものを持ち込んでもらえるよう説明を行っている。実際に、自宅で使用していたタンスや仏壇等が持ち込まれており、自宅に近い環境が作られている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩、歩行器、車椅子レベルが混在して生活を送っているが、常に見守りを行い、徘徊がある人は付き添って歩いている。		